

1934年にドイツ宣伝相が警告を発していた！

戦後の日本人が見事にはまった 19項目からなる「人間獣化計画」

実はこのサイトの存在はかなり前から気が付いていて、時々読んでは「へえ～、なるほど、本当か？」などと受け止めていました。今回、尖閣の事件や拉致の問題をレポートしたこともあって、日本人の危機感の低さにもどかしさを感じたときに、下記の赤字で示した「人間獣化計画」を思い出して、今回ご紹介したいと考えました。

そのサイトは「[アメリカのユダヤ人](#)」、いわゆるユダヤ陰謀論の類なのかも知れません。11項目の部屋が出来ていて、そのうちの一つが「日本人に謝りたい」という部屋です。この中に六章の項目があって、今回紹介するのがそのうちの第三章「日本人の知らない東京裁判の本質」の項です。

読んでみると、半分くらいは既知のことであり、ええ～と言う部分もあり、う～ん「そこまでは」という文章もあって、評価が複雑です。ただ、30年以上も前にモルデカイ・モーゼと言う人が『日本人に謝りたい』という本を日新報道から出版していて、この本から抜粋した文章が収録されているのがこのサイトなのです。

私のはじめて読んだ時にショックを受けたのは、この「人間獣化計画」が1934年にドイツのゲッベルス宣伝相により、[ドイツ](#)国民に与える警告として発表したものだということ。しかもそれが戦後の日本人に見事に定着してしまった、という事実です。以下、抜粋です。気が向いたとき、お時間のあるときにご覧下さい。より詳しくは「[アメリカのユダヤ人](#)」のサイトで、さらには本をご購入のうえお読み下さい。



日新報道から定価2100円で発売中です

日本人に謝りたい
～ あるユダヤ長老の懺悔 ～
— ユダヤ長老が明かす戦後病理の原像 —

■■■第3章: 日本人の知らない東京裁判の本質

■■ゲッベルスは戦後日本の予言者だったのか

ドイツのゲッベルス宣伝相は、[ドイツ](#)国民に与える警告として次のような内容の文書を1934年に公布している。それは、非常に強大な超国家的勢力が、文明の破壊にもつながる心理戦、神経戦を挑んできている。これに対して[ドイツ](#)国民は十分警戒せねばならない。この心理戦、神経戦の目的とするところは、人間の純度を落とすことにより現存する国家を内部からむしばんでいこうとするものである。



ナチス・ドイツの宣伝相ヨーゼフ・ゲッベルス

ゲッベルス宣伝相が挙げたこの超国家的勢力の狙いとする心理戦、神経戦とは次の如き大要である。

「人間獣化計画」

愛国心の消滅、悪平等主義、拝金主義、自由の過度の追求、道徳軽視、3S政策事なかれ主義 (Sports Sex Sc reen)、無気力、無信念、義理人情抹殺、俗吏属僚横行、否定消極主義、自然主義、刹那主義、尖端主義、国粹否定、享楽主義、恋愛至上主義、家族制度破壊、民族的歴史観否定

以上の19項目をつぶさに検討してみた場合、戦後の日本の病巣といわれるものにあてはまらないものがただの一つでもあるだろうか。否、何一つないのを発見されて驚かれるであろう。ゲッベルス宣伝相は、戦後の日本に対する予言者だったのであるか。

戦後生まれの人たちにはピンとこないかも知れないが、これらは正常な人間の頭で判断すれば人類の文明の破壊につながるものであることは一目瞭然である。人間の純度を落とし、本能性に回帰させようというものである。

ゲッベルス宣伝相が警告を発した第二次大戦前の時点でどれだけの人がこれを真に人類の文明への挑戦として脅威的に受けとったかは分らない。しかし第二次大戦が終わってみると、日本へはこれら一連の風潮が忍者の如く忍び寄って完全ともいえるほどに定着してしまっていたのである。

これらを戦後日本へ持ち込んだのは一体何者なのか。また、これらがこれほど完全ともいえる状態で日本に定着したのは何故か。

話を戻してみよう。精神衛生面の虚無性が何故に経済の高度成長をバックアップするのかという疑問も前述の19項目をみると直ちに理解されると思う。これらが日本人の間に巣喰ってしまうと、楽しみはただ「カネ」ということにならざるを得ないであろう。つまり、すべてを「カネ」のために、という思想が強烈なものにならざるを得ないのである。いわゆるエコノミックアニマルの徹底ぶりである。

ここにエコノミックアニマルと、「アニマル」なる語が使われているのは、ゲッベルス宣伝相の警告にあった「人間獣化」と一致していて面白い。エコノミックアニマルという言葉は、[パキスタンのプット外相](#) (のち大統領) が言った言葉だが、急所を突いていると思う。

高度成長のほとぼりもさめた今日、日本人が真剣に取り組まなければならないのは、この精神衛生面の虚無性である。志ある人々は皆、日本はこのままでいいのかと憂えている。

何故、前述のゲッベルス宣伝相の警告にあるような思潮が今日の日本に定着してしまったのか。また一体誰が巧妙に持ち込んだのか。持ち込んだ時期は終戦後のどさくさにまぎれてのことであるのは誰にでもわかることだが……。

さらに、忠実な残置謀者とでもいうべき、これら病巣をタブーとして固持、培養している勢力は何か。その勢力とこれを持ち込んだ勢力との関係は如何。今日の日本にとって最も大切なことはこれらを解明することではあるまいか。

さらに、これらの病巣の残置謀者たる勢力が金科玉条としている[日本国憲法](#)の作者は誰か。この[日本国憲法](#)の隠された狙いとは如何なるものか。そのルーツは、これらの諸問題にメスを入れることは今日の日本にとって焦眉の急といわねばならない。

これらの病巣のコーディネーターの役割をしているのが[日本国憲法](#)であることは何ら疑いを入れない。しかしもう少し考えてみると、この[日本国憲法](#)を持ち込み残置謀者を利用してタブーの網を張り、信仰という宗教的呪縛性をもって、あたかも千古不磨の大典の如く[日本国憲法](#)を最大限に活用している勢力は一体何なのか。さらに、この[日本国憲法](#)を最大限に利用するため準備行動として東京裁判という予行演習を演じていることも見逃せないことである。

■東京裁判は単なる復讐に非ず

東京裁判は、日本の戦後史の始まりである。今日までのこの東京裁判に関する分析、評価は、残念ながら、初歩的な感性的認識の域を一步も出ていないようである。現在ま

で一般に考えられているのは「復讐の儀式」と形容されるものの類いである。これはインドのパール博士の意見等を踏み台にしたものであろう。一面の真理を突いたものであることは確かである。〈中略〉



東京裁判(極東国際軍事裁判)の大法廷
(市ヶ谷の旧陸軍省の建物内)

「復讐の儀式」という説をとる場合、説明として出されるのが植民地を失った帝国主義国の復讐ということであるようだ。確かに、シンガポールの敗軍の将パーシバル中将がフィリピンでの山下将軍の裁判の席へ招かれている。これこそ、真に復讐以外の何物でもなからう。パーシバルは、フィリピン戦線の山下将軍とはなんの関係もなかったのであるから、このような点を見せつけられると、なるほど「復讐の儀式」説も分かるというものである。

だがしかし考えてみると、帝国主義の植民地喪失の復讐といった場合、主役のアメリカは当てはまらない。アメリカは植民地を何ら失っていないからである。なお、フィリピンはルーズベルト政府の時代から安上り支配のためには名目上の独立を与えた方が得策として独立を認める予定になっていたものである。

■なぜ満州事変以後が侵略戦争なのか

さて、この東京裁判の結論で非常に奇妙なことが一つある。裁判の本質にメスを入れる前にこの点を明確にしておくことは重要である。

この裁判の結論は、満州事変以後を「日本帝国主義」の「侵略戦争」としている。林房雄氏の「大東亜戦争肯定論」に面白いことが出ている。それは、ある共産党員が日露戦争を侵略戦争と規定すべきかどうか迷っているという意味のことである。これは彼の主体性のなさを物語る格好の証左であるが、また非常に重大なる問題提起でもある。何故、満州事変以後が侵略戦争で、日露戦争、シベリア出兵、第一次大戦は「日本帝国主義」の「侵略戦争」ではないのか。これは奇妙なことではないか。

その理由はハッキリしている。これら満州事変以前の戦争が米英仏等の利害と衝突しないからである。否、むしろ利害が一致していたのである。日露戦争は「英露戦争」とも欧米では呼ばれているぐらいである。帝政ロシアの南下政策に脅威を感じた英国は、帝政ロシアの南下を防ぐものとして日露戦争を歓迎していたものである。日英同盟を結んだのも、その意味で考えればよい。

またシベリア出兵こそ、その意味では日本を攻撃するのに最も都合な材料かも知れないが、これも侵略戦争という刻印を押しづらい。何故か。アメリカも出兵しているからである。第一次大戦はどうか。これはもう地中海まで日本海軍はイギリスのためにお付き合いしているのであるから、文句のいいようがない。

結局、これらの戦争に関して日本を悪玉に仕立てようと試みると、欧米列強自身も火の粉をかぶることになりそうである。上を向いてツバをはくことになる。

一方、満州事変、支那事変、大東亜戦争は議論の余地なく、米英仏等と利害関係が対立するものである。これを徹底的にとつちめない法はない、ということである。

今、米英仏などと国家単位で述べたが、この稿の目的とする超国家的勢力を主役とする歴史観からするとやはりこの大勢力との利害の衝突、利害の一致の問題が、前述の国家単位の歴史観とピッタリと重なるのである。この点、どちらから説明しても同じである。しかし後に述べるように、超国家的勢力を主役とした歴史観の方がより正確な史実の分析が可能であるということである。

この超国家的勢力は近世史を事実上動かしてきたものであるが、日露戦争においても日露両方へ資金援助をしているのである。この勢力が得意とする両建て主義である。別名、釘抜き戦術ともいわれる。つまり、釘抜きのごとく両方からはさむという意味である。

この勢力は、日露戦争を大歓迎していたのである。その理由は、ツァーの打倒を至上目的としていたことにある。これでは、いくらなんでも日露戦争における日本を侵略者とはいえないであろう。

さて次なるシベリア出兵問題は、大変複雑である。これは従来の教科書的歴史観にとらわれては、何がなんだかさっぱり

わからないであろう。

まず**ロシア革命**といわれる事件であるが、これをプロレタリア革命などといったのではお話にならない。これは当時の欧米の新聞論調が皆「**ロシア・クーデター**」と呼んでいる如く、欧米の新聞のほとんどはこの大勢力の支配下にあるのであるが、単に首がすげかえられただけである。ツァーからこの大勢力へ。

したがって、日本がシベリアへ出兵したということは共産主義革命を叩きつぶすためということにはならない。これら大勢力に対する挑戦ということになるはずである。そうとあれば、東京裁判の主役たるこの大勢力の怒りを買って侵略戦争というレッテルを張られること必定と思いきや、事実はさにあらずというのが実情である。では何故このようなことになるのか。それは**アメリカ**も参加していたことに原因がある。

アメリカのウィルソン大統領は日本が出兵を宣言するや、その翌日に早くもアメリカの出兵を宣言しているのである。中立主義、孤立主義の風潮の強い当時のアメリカが何故直接ほとんど利害関係のないシベリアへ出兵したのか。利害関係があるというのなら話は全く別であるが、事実**アメリカ**はカムチャッカの割譲を熱心に希望していたのであるが、それはさておき、アメリカの参加の真の目的はボルシェヴィキの援助なのである。



第28代**アメリカ**大統領ウッドロー・ウィルソン

重複をかえりみず説明すれば、この**アメリカ**遠征軍には奇妙なことに英語の話せない米兵が多数いたのである。これらの米兵、実は**ポーランド**出身のユダヤ人なのである。つまり、隣にあってたえず自分達の脅威であったツァーを打倒したのであるからこれを永続させねばならない。つまり、ボルシェヴィキを援助しなければならぬ。それが**ポーランド**のユダヤ人が米軍に参加した理由である。

ともかくにも**アメリカ**自身はるばる兵を出しているのであるから、日本を侵略者と呼ぶことはさすがに気がひけるのであろう。以上で、満州事変以後を日本の「侵略戦争」と呼ぶ理由をお分かりいただけたと思う。

■階級闘争史観の持ち込み

さて、このへんから東京裁判の本質にメスを入れることとしよう。

この東京裁判は日本の戦後史の始まりというにふさわしく、非常に深い意味をもっている。戦後日本の価値感覚その他が戦前と180度の転換をみせたといわれるが、その原点はこの東京裁判にある。

マルクス主義階級闘争史観というもの観念的には大正時代から移入され、日本国内のインテリの間でいろいろ論議されてきたものである。しかし、これらは現実の問題としては何ら国民に影響を及ぼすものではなかった。しかるに、東京裁判によって持ち込まれたマルクス主義の階級闘争史観は、この裁判に続く**日本国憲法**の持ち込みによって日本国民の価値観を180度転換させるまでの大きな影響を及ぼすことになった。

東京裁判の本質はマルクス主義の唯物史観における「階級闘争論」の持ち込みにこそある。この二元論の持ち込みにより、以後、日本の内部は收拾のつかないような内戦状態に陥ることになったのである。

もともとこれを持ち込んだ勢力の目的とするところは、唯物史観にある如く国家を内部闘争により破壊、転覆させることにあるのであるから、当然の帰結であるといえよう。東京裁判は先ずそのような思考パターンを植えつける目的に利用されたものであり、それに続く**日本国憲法**の持ち込みにより階級闘争史観という二値論理に市民権を与えてしまったといえることができるであろう。

それでは、東京裁判によって演出された二元論的思考の植え込み、階級闘争史観の設定の現実を見てみよう。

その方法は、日本国民を二極分化させることから始まる。即ち、マルクス主義の階級闘争史観は、すべての歴史は支配階級と被支配階級の間における階級闘争の歴史であると主張するものであるのはご承知の通りであるが、この論法を持ち込むのである。

■善悪二元論の持ち込み

今度の戦争は日本の支配階級、「**天皇**制軍国主義者」の起こしたものであり、被支配階級である大多数の日本国民に責任は

ない、否、むしろ被害者である、一握りの天皇制軍国主義者にだまされていたのである、とする二極分化論である。この論法はかつて北京を訪れた日本の各層の人々に故周恩来首相が常に口にしていた論法と同じであることから、これがマルクス主義の階級闘争史観であるということをご理解頂けると思う。

この勢力はマルクス主義を自己の目的のため手段、道具として利用する勢力である。日本の戦後支配の出発点において早速、自己が創造したマルクス主義という虚構仮設を持ち込んだのであった。これは実に有効な手段、道具として役立ったのである。

その第一は、自己の戦争責任の免責である。(本格的な戦争責任論は稿をあらためる予定である)自己が火の粉をかぶる前に、その責任を日本の「支配階級」、すなわち「天皇制軍国主義者」に転嫁することに成功している。しかも、以後自分達に追及の手がのびることのないよう、一般日本国民に対しては一見寛大とも錯覚させる被害者意識を植えつけることが可能なわけである。

つまり前述した故周恩来首相のたびたびの言の如く、責任はあげて「天皇制軍国主義者」にある、日本国民に責任はない、否むしろ日本国民は被害者である、とする論法である。こういわれど、日本国民は戦争責任者の追及はずでに終わったと錯覚する。それというも、日本国民自身が免責されているのであるから、この論法は耳ざわりのいいことこの上ない。かくて、日本国民は以後すっかり戦争責任は一握りの「天皇制軍国主義者」にあるとの論を植えつけられ、真の責任者の追及を放棄したのである。

マルクス主義というものは、これを手段として有効に利用するものと、逆にこれに利用されるものとの二者があるのである。前者が後述するニューディーラーであり、後者が日本共産党である。

ニューディーラーは実に巧妙に階級闘争史観を駆使し自己の戦争責任の免責に成功したかに見えた。果たしてそううまく事が運ぶものであろうか。ここに、この勢力の予想だにしない事象が起こるのである。

この勢力の駆使するのは正真正銘のマルクス主義の唯物史観に基づく階級闘争史観である。その証拠をあげてみよう。それは日本共産党が戦前から主張していた講座派史観とピタリと一致することである。もともとこの勢力こそ、マルクスに変革のための虚構ハイポセシスの構築を依頼した張本人なのである。



東京裁判の様子

■講座派史観と一致一日共が飛びつく

さて、この勢力が東京裁判へ持ち込んだマルクス主義の階級闘争史観が戦前からの日本共産党の講座派史観とピタリと一致することから、当然のことながら日本共産党がこの東京裁判の結論にとびついて来たわけである。

日本共産党の講座派史観からすれば、よくぞ我々のやるべきことを代行してくれたといたいところであろう。かくて、GHQの前で赤旗を振り、「万歳」を叫ぶことになる。

ところが、前述の勢力は日本共産党という協力者が現われたためそれに足を引っばられ、東京裁判でまんまと成功したかに見えた自己の戦争責任の免責を危うくされる破目に陥るのである。

この勢力の構築した虚構仮設を自己絶対化することをその存在理由としている日本共産党は、忠実に戦争責任を「天皇制軍国主義者」であると主張している。ところが日本共産党が世界観と仰ぐ唯物史観によると、戦争の要因はその社会体制の中に存する経済的要因により起こると説く。資本主義体制では必然的な戦争要因を内蔵している。

しかし社会主義、共産主義体制に転化するとその必然的戦争要因は完全に除去されると説いている。しかも、その資本主義体制から社会主義、共産主義体制への転化は歴史的必然性であるという。その歴史的必然性を具現化する唯一の前衛が日本共産党であると一貫して主張している。

日本共産党が前衛としての本来的な責任を果たし日本を資本主義体制から社会主義体制へ、歴史的必然性という有難い要因

の応援も得て転化させていれば、戦争の要因は完全に除表されていたはずである。極論すれば、開戦の責任は一にかかって、[日本共産党](#)の無力と東京裁判を演出した勢力の側の怠慢という論理も成り立つのである。

マルクス主義は協力者を募るためにこの勢力が発注したものであったが、[ロシア革命](#)の時の如くまく協力者としてのみ働いてくれるものが現われれば万々歳だろうが、時には飼い犬に手をかまれる結果となることもあることを知らなくてはならない。

もう一度整理すると、[日本共産党](#)が東京裁判の結論に両手を挙げて賛意を表したために、唯物史観の論理上から「[天皇](#)制軍国主義者」が戦争の全責任という彼らの狙いは揺らいできた。このことは、東京裁判そのものに対しても打撃であろう。少なくとも、[日本共産党](#)の講座派史観と全く同じ論法を東京裁判に持ち込んだこの勢力は、今日、自己も無関係とはいっておれまい。

さて、それでは東京裁判を通じて日本へ持ち込まれたマルクス主義の階級闘争史観は日本の戦後史へどのような影響を及ぼしたかをつぶさに見てみることにしよう。

■深い後遺症

東京裁判の論法はすでにたとえ戦争責任については逆転されたとしても、深堪なる影響を日本の戦後史に与えてしまっている。

まず第一に、日本の社会へ階級闘争を持ち込んだことである。これは、続く[日本国憲法](#)へ実体法のカテゴリーに属す条項を挿入することによって、確固たるものとして定着させられてしまっている。この階級闘争もさることながら、より大きい病巣は宗教性の呪縛であろう。

前述の東京裁判式の論法は、善玉・悪玉論理をはぐくむことになる。戦争責任はあげて一握りの支配階級たる[天皇](#)制軍国主義者にある、大部分の国民はむしろその被害者であるとする論法は、先ず第一に戦争責任者を国外に求めることを忘れさせる効果をもつ。また、これにより旧敵国がいかにも雅量のあるものわがりのいい寛大な存在に映り、以後の占領政策をやりやすくする効果をもつ。

しかしこれらよりも大切なことは、支配階級というものは常に悪玉であるとする思潮が生じることである。それに対して自分達は被害者、すなわち善玉なのだ信じ込ませる作用をもつ。ここにユダヤ教的善玉・悪玉の二値論理が持ち込まれることとなる。

こうして、悪玉、すなわち「[天皇](#)制軍国主義者」に「支配」された戦前の日本はすべて悪であるとする観念が生じる。逆に自分達は被害者＝善玉と規定してくれた[アメリカ](#)占領軍の以後の政策をすべて善と感ずるであろう。

さらに、支配階級というものは常に悪玉であると教え込まれると、戦後の政権担当政党も支配階級の代弁者であるから当然悪玉である。故に、これにことごとく反対することは善玉の崇高な使命であると信じ込まれることになる。今日みる如く政権担当政府のやることには何でも反対する思潮は、このようにして東京裁判を通して巧妙に持ち込まれたのである。

そうして、これらを確固不動のものにするため[日本国憲法](#)を作成し、その残置謀者として[日本共産党](#)を利用することになるのである。次なるものはいよいよ[日本国憲法](#)ということになるわけである。

尖閣諸島と、尖閣諸島の漁業関係者の生活を守るため、
国会請願署名にご協力をお願いします(バナークリック)。



カテゴリ: [政治](#)も フォルダ: [指定なし](#) [L5](#) [CLIP](#) [+](#)

[コメント\(14\)](#)

タグ: [日本人に謝りたい](#) [モルデカイ・モーゼ](#) [日新報道](#) [人間獣化計画](#) [ドイツ・ゲッベルス宣伝相](#)

コメント(14)

[コメントを書く場合はログインしてください。](#)

Commented by [katachi](#) さん

2010/10/26 22:37

ユダヤのプロトコール(議定書)と言うのもそうですが、これも偽書とされていますが、余り



にも現状にピッタリの描写に驚きます。

人間にSEK・スポーツ・映像を与えていれば人間が思考することをしなくなる。
与えられた情報をそのまま鵜呑みにするようになる。

正に戦後日本がそうでありました。

偽書とは言いますが、人間がそう言う風に墮落する過程を見通している事であり、TVなどがない時代に書かれた書であることに驚く。

先を見通す何らかのオカルトチックな様相が働いているかのような錯覚に陥ります。フリーメイソンやイルミナティーも同様でオカルトチックな何かが働いているようなニュアンスがあります。

これらの組織のトップは必ず不明であり個人なのかグループなのかはぼかされており指令が何処から降りてくるのかも不明となっています。

世界史の歴史も昔から「ヒズ ストーリー」と言われるほど何かに作為的に作られてきたし実際にそのような事件は起こされてきた。

日本は、キリスト教国では、ないためにそのような**コモンセンス**を一般的に持ちえないが、欧米はそうではなくバイブルの預言を信じているのである。

アメリカ大統領の演説にもしばしばアルマゲドンなどは引用されている。

そして確実にそちらへ向けてあからさまに歴史を作っていくのである。

ユダヤ教も単なる宗教とは違って日本の陰陽師のような「カバラ」と言うオカルトチックでもあり科学的要素もあるような暗号に満ちた書でありそれらを駆使して、秘密結社が成り立っている現実が有る。



Commented by **花うさぎ** さん

2010/10/27 05:17

To katachiさん おはようございます。

>ユダヤのプロトコール(議定書)と言うのもそうですが、これも偽書とされていますが、余りにも現状にピッタリの描写に驚きます。

そうなんですよね。この手の本ははじめに結論があって、それに向けての説明が出来すぎ、というのが多いような気がします。

ただ、19項目の人間獣化計画は、あまりにも日本の戦後と一致するので考え込んでしまいました。逆に言えば戦前の日本人の価値観を恐れ、それをひっくり返そうという勢力が今も闊歩している、ということに他ならないわけですが。



Commented by **lemontea2010** さん

2010/10/27 12:01

ユダヤ批判がタブーとされる中、このサイトはユダヤ人自身が書いた本を紹介していてとても凄いサイトですね。**フランス**革命から今日のアメリカ社会に至るまで、ユダヤ人の関わりを読むと歴史の裏舞台で何が起こっていたのかよくわかりますね。

愛国心が否定されている今の社会でどうしたら良いか。今の中国の覇権主義を機会に、日本は纏まらないともろく滅んでしまうという危機感を認識できないようなら、愚かな民族のたどってきた歴史と同様の結果が待ち受けていると思います。

「人間獣化計画」はいわゆる国家の概念を持たない、左マキの思想です。この危険性に早く国民が気がついて欲しいです。



Commented by **花うさぎ** さん

2010/10/27 12:54

To lemontea2010さん こんにちは。

>このサイトはユダヤ人自身が書いた本を紹介していてとても凄いサイトですね。

はい、かなり長いですよ、開設されてから。

>愚かな民族のたどってきた歴史と同様の結果が待ち受けていると思います。

そうならないように必死で声を上げているのですが。

>「人間獣化計画」はいわゆる国家の概念を持たない、左マキの思想です。この危険性に早く国民が気がついて欲しいです。

はい。獣化された人間が政権を取っているのですからどうにもなりません。いまの鳩山、小沢、菅、仙谷とみてると、[民主党](#)支持者を怒鳴りつけたいですよ。



Commented by [iza1824](#) さん

2010/10/27 15:59

花うさぎさん こんにちは、

賛同いたします。私は親友の一人の15歳年上の[アメリカ](#)人(82歳—1928生まれ)と35年前に仕事上で知り合い今もイーメール、[スカイプ](#)通話等で仲良くしております。ロード・[アイランド](#)州に住んでいる人です。[アメリカ](#)地図を上から見てNY州の右隣に在る多分全米で一番小さな州です。

20年くらい前に彼の自宅近くのプロヴィデンスと云う町で夕食を彼の奥さんと私と3人でしながら、親しいゆえ、いつの間にか戦争、広島、長崎の話になりました。親しくならないと、今でも、抵抗の有る話題です。

私から、もし(意味の無い馬鹿な質問と分かった上ですが、親しさゆえ、気まずい思いにはならない自信が有ったので)日本人が白人だったら、広島、長崎に原爆投下したのだろうか? 10秒足らず夫婦同志見つめ合った上の返事は、[Very honesty with you, we don't think so. =

正直言ってそうは、思わない]でした。そしていま80歳代前半の人達ですが、その当時、60歳前半でしたが、花うさぎさんも過去に何回もお聞きになったでしょうが、殆どのアメリカ人はアメリカの兵隊は勿論、日本人をあれ以上殺さない為の“良い”選択だったと理屈抜きで信じて居りました”。今の、中国人([韓国](#)人も)が60年以上反日教育を受け、現状に至っているのと同じです。

何で”た”を付けたかと云いますと、その五年後位に夫婦が日本に来た時岩国の「錦帯橋」(旦那が建築家)を見たいと云うので連れて行った時、車でしたので、広島に行き「[原爆ドーム](#)」に黙って連れて行きました。奥さんは特に入館を躊躇しましたが、兎に角、入館いたしました。途中で奥さんが「慟哭」して、理由が何であれ、これは、いけない、絶対にイケない事だと泣いていました。

長くなりましたが、この秀逸過ぎる東洋の日本人をこのままにして置く訳にはいかないと云う発想からGHQも絡み日本人無能化計画が始まり60年強たった今の日本の状態だと思うのは間違っているでしょうか? 現政権の連中、我々保守化の云う事が間違っていて、自分達は「国益に沿っている」と本気で思っているのかもしれませんが。

ご活動、心より応援致します。



Commented by [花うさぎ](#) さん

2010/10/27 18:22

To [iza1824](#)さん こんにちは。

貴重な体験談、ありがとうございました。

>“良い”選択だったと理屈抜きで信じて居りました”。

私の好きな「凜として愛」のオープニングで、偽りの歴史に日本人も[アメリカ](#)人もいまま騙されている、という台詞があります。まさにその通りですね。

>これは、いけない、絶対にイケない事だと泣いていました。

それは貴重な経験をされたと思います。ありがとうございました。

>現政権の連中、我々保守化の云う事が間違っていて、自分達は「国益に沿っている」と本気で思っているのかもしれませんが。

誇りも自尊心も失い、支那語を強いられ日本人同士の結婚を禁止され、やがては日本民族が消滅する奴隷国家を夢見ているのでしょうか。

私だったら死力をつくして戦う道を迷わず選びます。皇紀2670年、我々の先輩はそうや

って外敵と勇敢に戦い、「日本」を我々の手に託したのです。

2010/10/27 19:28

>ご活動、心より応援致します。

ありがとうございます。頑張りましょう。



Commented by **みけねこ** さん

2010/10/27 19:31

以前、他のブログで「日本人に謝りたい」を少し読んで愕然としました。
このさい、本を買って読んでみようかと思っています。

日本を潰してしまおうという大きな力が働いていると思うと、私たち保守派の闘いはこれから先もたいへん厳しいものだと思います。

逆に、それほど畏れられている日本人は、すばらしい民族、まさに麻生元総理がおっしゃるように「とてつもない」民族であり国だと思うと、多くの「普通の人々」が洗脳されているのが悔しくてなりません。



Commented by **abusan123** さん

これは日本のみならず米国でも見られ、勿論中韓両国にも見られる現象であり従って世界各国に見られる現象でしょう。

[パチカン市国](#)でさえ同様の墮落の兆候が見られるほどですから！

プータン王国に対する警告ですらありますね。

つまりは日本に限らず国際的問題として斯様な動きがあるということを示します。人間墮落化計画とも言いますな。



Commented by **花うさぎ** さん

2010/10/27 20:18

To みけねこさん こんばんは。

>このさい、本を買って読んでみようかと思っています。

この本は「是は是、非は非」のスタンスで読まれることをお勧めします。このエントリーで紹介した部分はほとんどOKですけど。

>まさに麻生元総理がおっしゃるように「とてつもない」民族であり国だと思うと、多くの「普通の人々」が洗脳されてしまっているのが悔しくてなりません。

はい。あのシュバイツァー博士が激賞した「日本」を取り戻したいですね。「日本に手を出した国は必ず滅びる」の言い伝えが本当だった、と言う目にあわせたいです。



Commented by **花うさぎ** さん

2010/10/27 20:21

To abusanさん こんばんは。

>従って世界各国に見られる現象でしょう。

しかし、これほど重傷な国は希でしょう(^^;)。

>人間墮落化計画とも言いますな。

ここまで墮落した国民がいる場合は、「国防の義務と責任」を法制化しないとイケませんね。



Commented by **ym0402** さん

2010/10/27 21:33

文献？とか経済とか文学とか
いろんな方向から今の時代が解き明かされていますね。

本と言えば

図書館。

たとえば渡部昇一さんの著書が図書館でも

減らされて？いるとか聞きました。

そういうのも怖い動きですね。

ネット時代であることが救いです。

2010/10/27 23:08

中国国内でも、(ノーベル平和賞のことも)
強い統制下でもツイッターで
情報が行きかっているらしいです。

Commented by **キラート細胞** さん

2010/10/28 08:39

エントリー違を御許し下さい。

たち日の与謝野馨氏が、また問題発言をしました。尖閣問題についてこれ以上余波を拡大すべきではない、この問題は既に解決済だ(だからビデオは非公開で良い)ですと。

<http://kamome.2ch.net/test/read.cgi/newsplus/1288183149/>

もうこの人には、たち日からではなく政界から出て行つて欲しいです。平沼氏が毅然とした態度を取らないのなら、たち日は救国政党なんぞではなく、所詮泡沫政党に過ぎないと認識を改めるべきでせう。

Commented by **花うさぎ** さん

To ym0402さん おはようございます。

>いろいろな方向から今の時代が解き明かされていますね。

まだまだ秘密資料が未公開の部分もありますから、これもどんどん新しい事実がわかってくるでしょうね。

>たとえば渡部昇一さんの著書が図書館でも

>減らされて？いるとか聞きました。

図書館については左翼が圧倒的勝利を収めています。ビックリするくらい保守家の本が少ないです。

>強い統制下でもツイッターで

>情報が行きかっているらしいです。

そのようですね。支那も情報ツールの発展には危機感を持っていることでしょう。

Commented by **花うさぎ** さん

2010/10/28 08:40

To キラート細胞さん おはようございます。

> もうこの人には、たち日からではなく政界から出て行つて欲しいです。

保守にとって一番大事な局面で党首の活躍に水を差すことばかりいってますね。決着をつけるときかも知れません。